

【開催報告】 「岐阜大学 地域交流協会の平成30年度 総会・記念講演会・協会のフォーラム/交流会」を開催いたしました (2018年5月29日(火))

平成30年5月29日(火)13時より、岐阜大学 地域交流協会「総会・記念講演会・協会のフォーラム/交流会」を「じゅうろくプラザ(岐阜市)」にて開催いたしました。

1. 総会

総会は、岡本会長が議長となり議事にはいりました。平成29年度 事業報告/決算報告、平成30年度 事業計画/予算計画(案)および平成30年度役員が坪井事務局員より報告され、異議なく承認されました。

2. 記念講演会(司会進行:副学長 王 志剛)

15時より「たま駅長に学ぶ 忠恕の経営」と題し、両備グループ 代表兼CEO 小嶋光信氏にご講演いただき、120名が聴講しました。

(概要) 廃線の危機に立たされたローカル路線 貴志川線は、2006年に両備グループに経営が引き継がれた後、猫の“たま駅長”の絶大なる知名度により復活を遂げた。初代“たま駅長”は、その愛くるしさと駅長としての仕事ぶりで、日本のみならず海外でも有名になり、猫ブームをけん引することにもなった。2015年の葬儀の際は、新華社通信、BBC、CNN、ウォールストリートジャーナルなど世界の主要メディアでその死が報じられたほどである。小嶋社長と“たま”の出会いは、駅に設置してあった“たま”たち猫小屋が、経営移管による駅整備のために取り壊されるところから始まる。困った飼い主が小嶋社長に猫たちを駅に置いてもらえないかと直談判し、“たま”に会いその眼を見た小嶋社長が「今の日本人には無い実に立派なキラキラした眼をしていました」と惚れ込み、ねこ駅長としてデビューさせることになった。その後の“たま駅長”の活躍は衆知である。小嶋社長がこの出会いをしっかりと受け止めることができたのは、小嶋社長が両備グループの経営理念として定めた「忠恕」(真心からの思いやり)をまさに実践したためであり、困ったねこ達と飼い主をなんとか助けなければならないという思いと、両備グループの行動規範である「知行合一」(行わなければ知っているとは言えないという陽明学の命題)に基づいて迅速に行動したためである。このように、日本は、朱子学や陽明学が哲学、思想に大きな影響を及ぼしており、西洋とは違う思想基盤の上に社会が構成されている。現場で実際に手と足を動かしたものが経営を進めていくことが重要であり、知っているだけではだめで常に行動も伴わなければならない、そのためには「まず、一歩踏み出してみる」ことがとても重要であると強調されていた。



3. 協会のフォーラム・交流会(司会進行:連携推進部門長 上原雅行)

協会のフォーラムでは、岐阜大学技術交流研究会(9研究会)、会員企業R&D向上促進事業(1件)、民間企業との共同研究促進事業(3件)の研究紹介を行いました。その後の交流会では、会員相互、会員と先生方・講演会講師及び大学関係者との情報交換が行われると共に、懇親を深める場となりました(参加者83名)。

